



寺口麻穂

# ドギーパラダイス!

犬と人間の快適な生活

第29回

## 日本の犬事情② レオン編



てらくちまほ

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃から夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わると共に、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供している。愛犬ジュリエットが他界した今は、ニューヨークに移転して活躍中。ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com

間にも他の犬にもフレンドリーだけど、いつも誇り高く媚びることがない。そんな彼はまさしく「王様」でした。今年里帰りした私は、「滞在中にこのバック(群れ)構造を180度覆さねば!」という使命感に燃えたのです。

今まで自分の地位を脅かされたことがないレオンにとって私の挑戦は脅威で、莫大なストレスを感じたために仲良しの老犬2匹に噛み付くという事件まで起こしました(幸い怪我なし)。その後も歯をカタカタ鳴らし、足の筋肉もぶるぶる震わせて、中毒患者の禁断症状さながらです。

私の実家(大阪)では、長らく、高齡の三河柴犬ブルートを飼っていました。しかし、13年前、母がふっと目を離した瞬間にブルートが脱走。その時、私はすでにアメリカに住んでいたのですが、家族総出の大搜索索しく、ブルートは二度と姿を見せることはありませんでした。でも私は、もしかしたら、ブルートは隙を狙って、そと実家の縁の下にでもめぐり、そこを自分の遊び場にしたのではないかと推察しています。基本的に動物は、自分の最期を感じたら群れから離れてそとと他界します。歩くのもままならないほどよぼよぼだったブルートが、「逃走」できるはずがありません。私の家族に迷惑をかけないために身を隠しただけなのでしょう。

神社の境内で始めたトレーニングでは、抵抗して吠えたり通行人に助けを求めたりしましたが、次第に「こりや従うしかないや」と諦めたようでした。それからのレオンはたまに吠えることがあっても、前のようにけたたましく鳴き続けることがなくなり、以前なら絶対吠えていたという状況でも静かにしていられるようになりました。また、リラックスして寝ていることも増え、彼の中で確実に何かが変わったようでした。放牧犬の血を引いたレオンは常に仕事への使命感にあふれ、家族という群れを引っ張る責任を背負って暮らしてきたわけですが、最初の困惑と抵抗が消えると「こりや楽でいいや」と、初めてフォロワーの利点を理解してくれたようでした。

しかし、その後の我が家はどつと暗い雲で覆われてしまい、特に

父の悲しみよりは大変なものでした。そこで私は、多くのペットロス体験者を見てきた経験から、「犬を失くした悲痛は犬という薬で!」と新しい犬を飼うことを提案。偶然、妹の上司の愛犬が予期せぬ妊娠をし、3匹のパピーが生まれました。母犬は純血のシエルティール、父犬はどうも近所のワイヤード・ヘア・テリアのようでした。当初、私の父親は新しい犬を飼うことには反対でしたが、3匹のパピーのうち最後まで残っていた1匹を引き取ることが決定しました。

さて王様レオンもかわいいもので、あんなに厳しい「先生」だったのに私のことが悲しいのか、私にアメリカに戻ってから探してくれているようです。さあ、ここからは飼い主次第。長年甘やかしてきた生活パターンを変えるのは簡単ではないでしょう。でもレオンは短期間で変わったのですから、父と母も努力してリーダーとしてレオンの上に立ち続けていてもらいたいと願って止みません。

### レオン調教? 両親調教?

こうして我が家にやってきたのが、レオンです。それからの11年半、甘やかされて育ったレオンは、とにかくうるさい犬になりました。

信じられないくらいいやかましい犬なのに、近所から苦情を受けることもなく、皆にかわいがられてきたレオン。とにかくよく吠える。何時間でも吠え続ける。非常に自己主張が強い犬です。ブルートをなくし子供も巣立ってしまった父と母にとって、レオンは目に入れても痛くない孫のような存在。それに加えてレオンは「典型的アルファ(リーダー)素質」を生まれ



実家の王様だったレオン

持っていて、一家を牛耳ってきました。たとえば、自分の思う通りに行かないことは声で訴える。人

次回も引き続き「日本の犬事情」をご紹介します。どうぞお楽しみを。